



◆鬼形 鬼子母大尊神（きぎょう きしもだいそんじん）

本堂の正面右側には鬼子母神堂があります。そのお堂の中央にあるお像が「鬼子母神さま」と呼ばれる鬼形 鬼子母大尊神（きぎょう きしもだいそんじん）です。インドでは「ハリティ」とも呼ばれています。

昔、ハリティは500人いる自分の子どもたちを養うために、村に現れて子どもをさらっては食べていました。村人たちは困り果てて、仏さまに助けを求めました。一計を案じた仏さまは、ハリティが一番可愛がっていた末っ子のピンガラを衣の中に隠しました。ピンガラがないことに気づいたハリティは、七日間探し回りましたが見つからず、泣きながら仏さまに助けを求めました。

仏さまはハリティに

「お前にはたくさんの子どもがいるのに、末っ子がいなくなっただけで狂って探し回っていたな！今までお前に自分の子どもを食べられた親の悲しみが分かったか！」

とハリティのこれまでの行いを叱り、命の尊さを説きました。

ハリティは改心し、ピンガラを返してもらった後は、子宝・安産・子育ての神さまとなります。そして日蓮宗の大荒行堂では行僧を見守る「尊神さま」と呼ばれ尊崇（そんすう）されています。

ハリティ=鬼子母神さまは「鬼形」をされていますが、決して怒っているわけではありません。法華経を信じる人や広める人を護り、邪魔するものに怒っている強い信念の表れなのです。

そして合掌をされているお姿は、仏さまへの帰依と、手を合わせてくださる皆さんへの感謝の気持ちの表れでもあります。

そのような理由で、経王寺では、節分の時に「鬼は外！」は言わず、「福は内！」としか言いません。鬼形の尊神さまが外に出られたら困りますから。



◆子安鬼子母神と十羅刹女（じゅうらせつによ）

尊神さま（=鬼子母神さま）の手前は「子安鬼子母神（こやすきしもじん）さま」とその子どもたちである、

「十羅刹女（じゅうらせつによ）さま」です。

鬼の顔から優しいお顔に。右手にザクロをもち、子どもを抱えています。尊神さまがザクロを持っているのは、仏さまが「また人を食べたくなったら、ザクロを食べなさい」と諭されたからです。

ザクロの実は、その実の中にたくさんの小さな実があり、その一つ一つが小さな種を持っています。このことから古くから子孫繁栄をあらわす縁起のよい果物「吉祥果」ともいわれています。

尊神さまがザクロを手を持っていることは子どもを守る神として「子孫繁栄」の願いも込められています。よく見ると、尊神さまのまわりには、ザクロの紋があります。ご祈禱をするお上人さんのお衣にもザクロの紋が入っています。ザクロは尊神さまのトレードマークでもあるのです。





そのほかにも、ご利益満載な神さまたちがいらっしゃいます。
どうしても中央の鬼子母神さまばかりが注目されてしまいますが、
左側には

「帝釈天（たいしゃくてん）・梵天（ぼんてん）・摩利支天（まりしてん）」が、
右側には

「北辰妙見大菩薩（ほくしんみょうけんたいぼさつ）」が勧請（かんじょう）※されて
います。

中央には「上首浄行龍行水神大明神（じょうしゅじょうぎょうりゅうぎょうすいじん）
だ いみょうじん）」と「八大龍王（はちだいいりゅうおう）」の御幣束（ごへいそく）と
「平和龍神」がお奉りされています。

※勧請（かんじょう）… 神仏の分霊を請（しょう）じ迎えること。

※御幣束（ごへいそく）… 神仏の乗り物。神仏の象徴を現じたもの。

「帝釈天」と聞くと、映画「男はつらいよ」を連想する方もいらっしゃると思います。寅さんに登場する、「柴又帝釈天（しばまたたいしゃくてん）」は「題経寺（だ
いきょうじ）」という日蓮宗の寺院です。日蓮聖人ご自身が彫られた帝釈天像が奉ら
れているお寺です。その帝釈天像をいつの間にか紛失してしまいましたが、江戸時代中期
に本堂の工事をする際に、屋根裏からひょっこり出てきたという面白いエピソードがあ
ります。

雷を操る武具ヴァジュラを使って悪に打ち勝つ豪快な帝釈天さま。そのご利益は「国
家安泰」といった大きいスケールのものから、「貧乏になりませんように」という身近
なものまで行き届きます。

「梵天」はもともと、ヒンズー教の神さまで、万物を創り出す神さまです。仏さまが悟りを開かれた時、教えを広めることをためらいましたが、広めるように勧めたのが梵天さまです。基本的には「護法(信仰者を護る)」が主要なご利益ですが、「立身出世」のご利益もあるといわれます。

ちなみに梵天さまの相方は、帝釈天さまです。二人は仲良しです。

イノシシに乗り、槍を構えているのが「摩利支天(まりしてん)」で、陽炎の化身といわれています。なんと「透明なバリアを張って、悪いモノから護って」くれたり、「勝負事」があったときも助けてくれます。戦国時代の武将たちは摩利支天さまを信仰されていた方が多かったようです。

「北辰妙見大菩薩(ほくしんみょうけんたいぼさつ)」は「妙見さん」とも呼ばれ、北極星の化身です。

「海上安全」から「商売繁盛」・「眼病平癒」・「智慧の神さま」とオールランダーです。亀と蛇が絡み合っている「玄武」の上に立ち、剣を地に立てている珍しい御尊像です。開山上人の持仏として伝わっています。

長い名前の「上首浄行龍行水神大明神(じょうしゅじょうぎょうりゅうぎょうすいじんだいみょうじん)」と、「八大龍王(はちだいいりゅうおう)」※は、日蓮宗の大荒行で四回目の修行を終えないと、その秘伝をいただくことができません。現在の住職が、平成28年に入行した際に感得して以来お奉りしています。「万物の根源は水である」ということから、とても力の強い神さまです。水行の際にはこの神さまのお力で身体を清めます。

また、「八大龍王」の一人「沙伽羅龍王(しゃがらりゅうおう)」の娘は8歳で法華経を聞いて成仏しました。「浦島太郎」に出てくる乙姫のモデルとも言われています。

※八大龍王(はちだいいりゅうおう)… 天龍八部衆に所属する竜族の八王。法華経に登場し、仏法を守護する。